



福井県における縄文時代の低地性集落の概要 —越前地方を中心として—

山本 孝一（福井県教育庁埋蔵文化財調査センター）

はじめに

福井県では、近年、圃場整備事業などに伴い、沖積平野における発掘調査例が増加し、縄文時代の資料が蓄積しつつある。これら沖積平野内の自然堤防に立地する低地遺跡については、木下（1980）の類型化に従い、以下「低地性集落」と呼称する。なお、今回扱う遺跡の大半は、現在整理途中であることから、遺跡の詳細については、報告書に委ねたい。

低地性集落の時期別動態

前期後半～後期初頭 集落形態は小規模点在の傾向を示す。各河川上流の扇状地や丘陵地上の該期の大規模集落と比較すれば、季節移住ないし漁労キャンプサイトのなあり方を示す可能性もある。

後期前葉～中葉 遺跡数が増加し、遺跡の大規模化が認められる。西鯉地区遺跡群においては、環状集落内に掘立柱建物（クリ半裁材の径約10mの大型円形建物を含む）・配石墓・埋甕などが検出されると共に、製品・未製品・加工具の出土からヒスイ加工も窺え、所謂拠点集落と考えられる。

後期後葉～晩期前半 遺構・遺物共に、ほとんど検出されておらず、様相は不明である。

晩期後半～末 遺跡数は増えるものの、自然河川の覆土からの遺物出土に限られ、明確な遺構は検出されていない。集落形態は、遺物出土量からも短期間存続の小規模点在傾向が窺える。同様な立地で、後続すると考えられる弥生時代中期（主に後半）の集落形態と比較して明確な差が認められる。

以上、時期別動態の特徴として、後期前葉からの遺跡の増加・大規模化が挙げられる。県内において、縄文時代の調査例は依然少なく検討を要すが、最も確認例の多い、丘陵や段丘上に立地する中期後葉を主体とする遺跡の大半が、後期前葉から衰退・断絶する傾向と対照的であると言えよう。

低地性集落における生業的視点

遺跡数や資料の希少さと併せて、自然科学分析などが積極的に行われていない点もあり、他立地の遺跡との石器組成の比較や、動植物遺存体における低地性集落の生業的特徴について、明確に把握し得なかった。しかし、立地的特徴とも考えられる集約的労働による資源の回収・加工、あるいは初期農耕の痕跡は現状では想定できない。

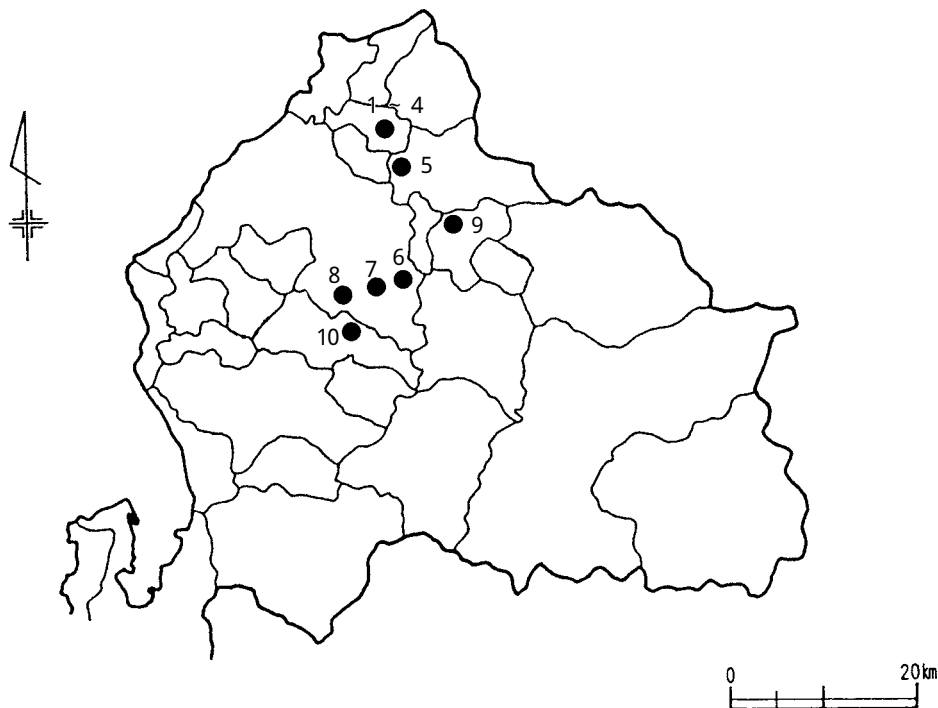
問題点と展望

何故、後期前葉から沖積平野に集落が進出し、あるいは集落の大規模化となったのか、今回の生業的視点からでは、見通しが付けられなかった。しかし、海退などの環境変化のみにとらわれず、集落における内在的要因や、交易・流通といった問題も含め、調査例の増加を待ちつつ、これからも検討して行きたい。また、晩期後半の遺跡において認められる、短期間の小規模点在化の傾向は、環境や生業形態を含め、集落造営の不安定な状態を示すものと考えられる。稲作導入直前・直後にあたるこの時期、生業の変化が集落の動態にどのような影響を与えたのかも併せて考えて行きたい。

参考文献

木下哲夫1980「福井平野及びその周辺における縄文時代後期文化について」『古代探叢』早稲田大学

山本孝一2001「福井県における生業関係遺構の概要と問題点」『関西縄文時代の生業関係遺構』資料集第2分冊 関西縄文研究会



福井県（越前）における低地性集落遺跡位置図

低地性集落遺跡地名表

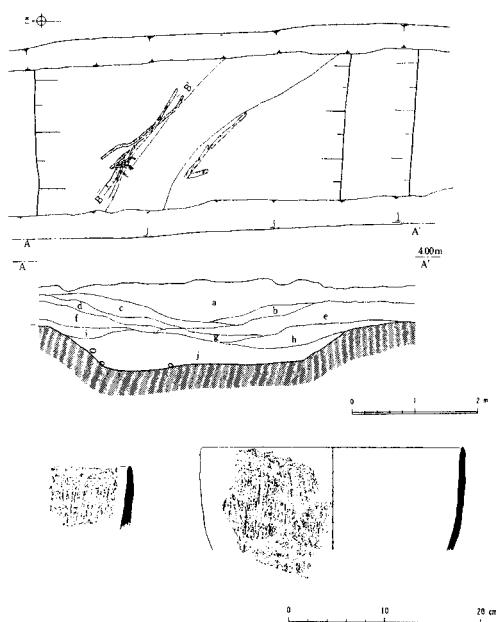
	遺跡名	所在	主体時期	主な遺構	調査年	整理中
1	大味地区遺跡群	坂井郡坂井町大味	晩期後半	護岸河川	1996	
2	西鯉地区遺跡群	坂井郡坂井町西	後期後葉～中葉	掘立柱建物・配石墓・埋甕・土坑	1998～2000	○
3	兵庫地区遺跡	坂井郡坂井町上兵庫	中期前葉・晩期後半	捨て場・自然河川	1996～2000	○
4	下蔵垣内遺跡	坂井郡坂井町下蔵垣内	中期・晩期	（遺物散布地）		
5	沖布目遺跡	坂井郡丸岡町沖布目	後期前葉～中葉	土坑	1995	
6	高柳遺跡	福井市高柳町	晩期後半	自然河川	1999～	○
7	上筋生田遺跡	福井市上河北町	後期前葉	竪穴住居？	1974・75	
8	曾万布遺跡	福井市曾万布町	後期中葉	埋甕	1972・73	
9	鳴鹿手島遺跡	吉田郡永平寺町鳴鹿山鹿	後期前葉	竪穴住居・土坑・捨て場	1986・87	
10	四方谷岩伏遺跡	鯖江市四方谷町	後期末～晩期前葉	貯蔵穴・木枠状施設・捨て場	1995	○

番号は遺跡位置図に対応する。
9・10は比較参考遺跡を表す。

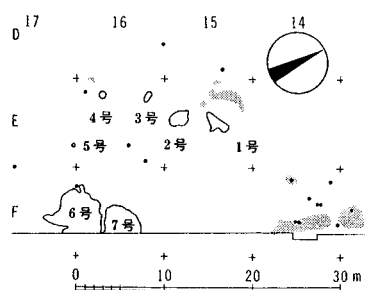
低地性集落における石器組成表

時期	遺跡	打斧	磨斧	石錐		浮子・軽石	石鏃	石槍	石錐	石匙	磨石類	石皿	砥石	石棒・石刀
				切目	打欠									
中期前葉	兵庫地区遺跡群 地区				1									
	兵庫地区遺跡群 地区						1				1	1		
後期前葉～中葉	西鯉地区遺跡群	155	56	6	12	9	65	1	1	2	202	75	15	16
	上筋生田遺跡	23	2	1	1						1			
	沖布目遺跡	27	1	1	11		1				9	1		
	○鳴鹿手島遺跡	398	2	47	179		4	1	1		365	116		
後期末～晩期前葉	○四方谷岩伏遺跡	16	8		1	3	7		4		62	3	4	13
晩期後半	大味地区遺跡群	10	2				3		2		4		2	

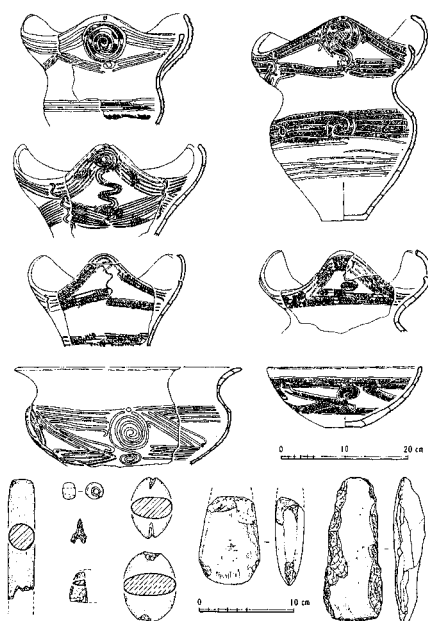
○は比較参考遺跡を表す。



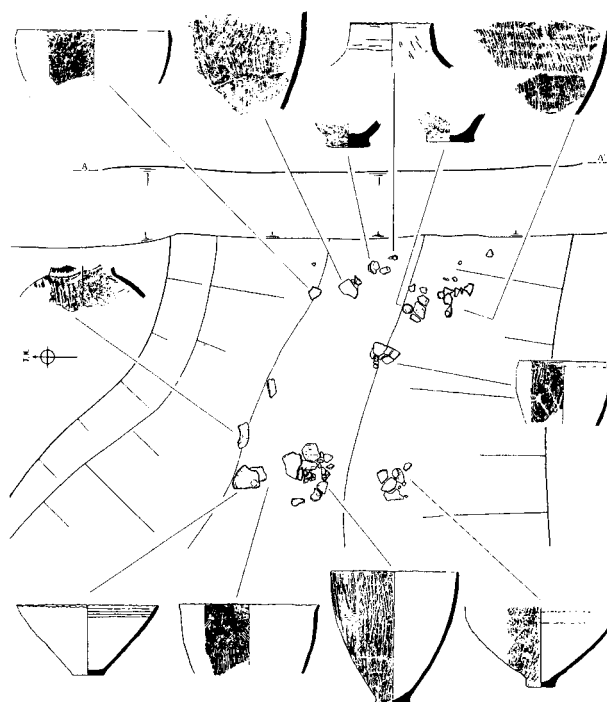
大味地区遺跡群 自然河川及び出土遺物



曾万布遺跡 縄文時代遺構・主要遺物分布図

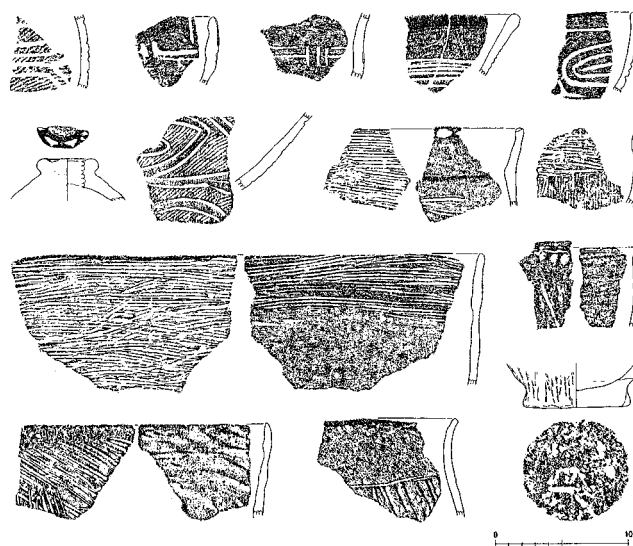


曾万布遺跡 出土縄文時代遺物



大味地区遺跡群 自然河川及び出土遺物

- a 青灰色シルト（炭粒混じる）
- b 青灰色シルト
- c 青灰色砂礫土



兵庫地区遺跡群 自然河川出土遺物